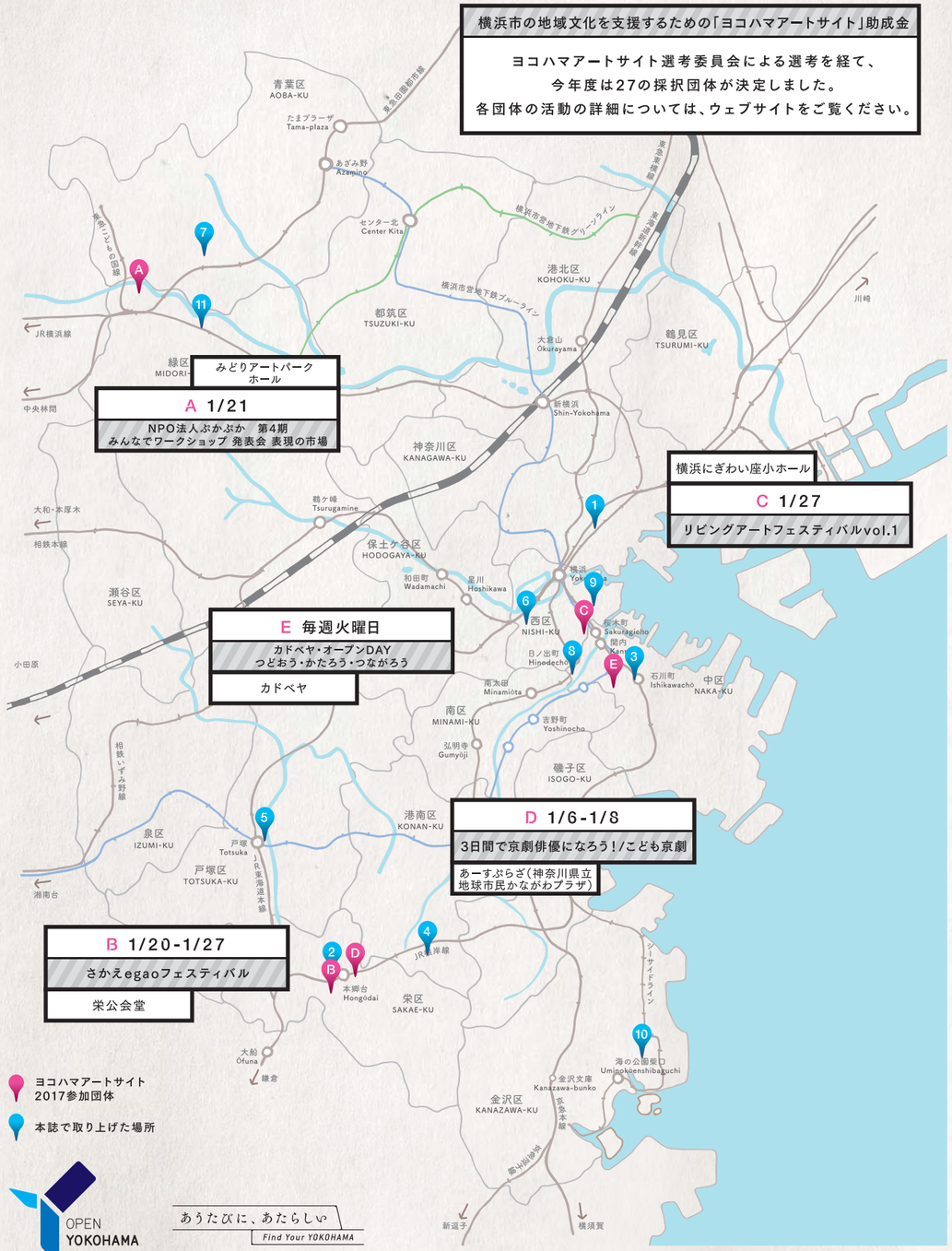
YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2017参加団体による
12月〜1月のイベントをピックアップ。ぜひ、おでかけの予定に加えてほしいものばかりです。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト選考委員会による選考を経て、
今年度は27の採択団体が決定しました。
各団体の活動の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。



A 1/21
みどりアートパークホール
NPO法人ぷかぷか　第4期
みんなでワークショップ 発表会 表現の市場

B 1/20-1/27
さかえegaoフェスティバル
栄公会堂

C 1/27
横浜にぎわい座小ホール
リビングアートフェスティバルvol.1

D 1/6-1/8
3日間で京劇俳優になろう！/こども京劇
あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）

E 毎週火曜日
カドベヤ・オープンDAY
つどおう・かたろう・つながろう
カドベヤ

ヨコハマアートサイト 2017参加団体
本誌で取り上げた場所

OPEN YOKOHAMA
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://y-artsite.org/

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイト

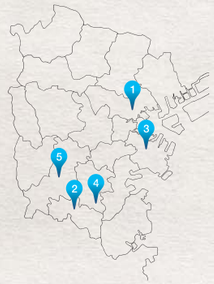
横浜の地域文化を考える・応援する

神奈川区・認定NPO法人あっちこっち「保育学校学生への講座（アーティスト・石河美和子）」

2017 Vol. 014

「特集　学校に出かけよう」

さかえdeつながるアート／中高校生世代の総合文化祭「Wakamono Arts Festival」に向けた学生との企画会議



校門は
まちへ開かれた
玄関なのかも

1 学生にアートを届ける入り口を考える

認定NPO法人あっちこっちは、2012年から、保育士を目指す学生を巻き込みながら、子どもたちへのアートワークショップを開催してきた。「子どものためにも、保育士自身がアートを楽しむことを知っているというのが大事」と語るのは理事長の厚地美香子さん、理事の田村麻衣さん。

10月には神奈川区・横浜こども専門学校にて、ワークショップで使用する作品を制作。美術家の石河美和子さんと共に「くるみ割り人形」に出てくるモチーフを大きな黒い布に絵の具で描き上げた。この経験は、子どもと触れ合う時の糧（かて）になるに違いない。未来の保育士たちは、生き生きとした表情でアートを楽しんでいた。

2 会議室から自分たちの表現を見つける

栄区民文化センター リリスの会議室で行われているのは、中高生世代の総合文化祭「Wakamono Arts Festival（わかもの なんでも ぶんかさい）」の企画会議だ。クリエイターやコーディネーターと、大学生や高校生が意見を交わしあう。

栄区を拠点に活動する「さかえdeつながるアート」は、2012年より「ティーンズクリエイション」として中高生世代と社会をアートでつなぐ取組を行ってきた。今回は企画段階から、中高生世代の“わかもの”や大学生が関わった。

「チラシのデザインにも彼らの意見が反映されています。それにSNSでの広報活動は若い人の方が得意ですね」と笑うのは代表の岩上百合子さん。地域の学校と連携し、アートやデザインを通じたキャリア教育も行なっている。いつもとは違うアートとの関わりは“わかもの”たちに新たな化学変化を生み出すことだろう。

3 いつもの体育館が国際交流の舞台に早変わり

「好（ハオ）！」と体育館に掛け声が響く。中国の伝統芸能を通じて、日中友好と文化振興を目的とした劇団・新潮劇院／一般財団法人日本京劇振興協会が横浜山手中華学校で行った京劇公演「孫悟空、天界で大暴れ」でのひとコマだ。この日は、掛け声のタイミングを含めた楽しみ方のレクチャーからスタート。先生や生徒が参加する場面では、客席から嬉しそうな声が上がる。

「学校という親しんだ場所での公演ということもあり、リラックスした様子の子どもが多いですね。作品との出会いは、その距離感によって印象が大きく変わります」と語るのは梅木俊治さん。今年度は学校での部活動化を目指し、放課後の時間を利用したワークショップを実施する。中華街に近い立地ということもあり、春節などの年中行事の際には京劇を通したまちとの交流も計画している。

4 アートを通して子どもたちに人生を楽しむことを伝えたい

「つなぐプロジェクト縁」は港南台ひの特別支援学校の教員が中心となり発足。2017年12月、音パーカッショングループ「otto＆orabu」を招き、コンサートを行った。otto＆orabuは鹿児島にある知的障害者支援施設・社会福祉法人太陽会しょうぶ学園で結成されたグループだ。

「障害のある子どものなかには、突然走り出したり、大きな声を出す子も。指導するとき『子どもの表現を抑制しているのでは』と苦しい瞬間があるんです。そんな時、鹿児島で、身体いっぱいで表現するアーティストを見て、こんなやり方があるのか！と驚きました」。そう語るのは代表の山本晋介さんだ。

当日は子どもたちが自由に動けるスペースも用意。地域の人々も参加できるよう工夫した。普段は生徒たちにとって馴染みの学校が、この日は新たな未来を想起させる会場に変わる1日となった。

5 学校での経験が地域とアートを繋ぐ

「学校に、アーティストをその周囲の空気ごと運んで行きたいんです」。と語るのは、「アートの時間」の菰方（こもかた）由美さんと木村あゆ子さん。その空気は子どもたちの別の顔を浮かび上がらせるという。

2007年から区内の小学校でアーティストとワークショップを行ったり、「言葉の展覧会」など、様々な活動を展開。当時は区内に区民文化センターがなく、アーティストと小学生の出会いは貴重なものだった。

今年から新たに、「話す」「聞く」だけで参加できる哲学的対話の場「ゆる哲カフェ」を開始。

「偉い人の言葉の受け売りではなく、普段の自分たちの言葉のやりとりの中で、それぞれの考えが揺らいだり、しがらみが少しほどけていくこともアートだと思っています。そんな体験がふーっと人を楽にする場になれば」。

学校とまちと、アートの時間はゆるやかにつながってゆく。

2009年「今、あなた自信にかける一言」展
区民から集めた言葉の展覧会（東俣野・畑）

P.3左　新潮劇院／
一般財団法人日本京劇振興協会
http://www.shincyo.com/shincyo.htm
P.3中　港南区・つなぐプロジェクト縁実行委員会
http://wip.tsunaguprojecten.com/
P.3右　戸塚区・アートの時間
https://www.facebook.com/artnojikan.totsuka/

ヨコハマ アートサイト ラウンジ Vol.14

アートプロジェクト、撮った後どうする？

【会場】シネマノヴェチェント（西区中央）【ゲスト】ART LAB OVA／NPO法人ぷかぷか／たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト／映像グループ ローポジション　【主催】映像グループ ローポジション、ヨコハマアートサイト事務局

6 記録映像が新たな物語へとつながっていく

昨今、スマートフォンなどの普及により、映像撮影はぐっと身近なものになってきました。アートプロジェクトの活動記録や、そこから派生した映像作品はどのように誕生し、活用されているのでしょうか。

地域とアートについての研修と交流の場「アートサイトラウンジ」。14回目のテーマは「アートプロジェクト、撮った後どうする？」。会場は、藤棚商店街に近接する日本最小のフィルム映画館と言われる「シネマノヴェチェント」です。まずは、ヨコハマアートサイトと関わりの深い4団体が事例紹介とプレゼンテーションを行いました。「ART LAB OVA」は普段の活動の中から生まれた映画作品を紹介。活動の記録でありながら、映画製作そのものを新しい活動として捉えたと説明しました。障害のある人たちの就労支援を行うNPO法人ぷかぷかは、活動のプロモーションビデオがきっかけとなり、国際的な自閉症フェスティバル「ANCA WORLD Autism Festival Âû」への参加が決まったと話します。また「たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト」は、本格的な撮影機材を会場に設置。参加者の気持ちを盛り上げ、地域にとっての特別な一日を演出しました。

「アートプロジェクトの記録映像も、ひとつの映像作品として独立させることで、新たなプロジェクトへとつながっていく」と話すのは長くドキュメンタリー映画を製作してきた「映像グループ ローポジション」の飯田基晴さん。ディスカッションでは、映像作品との出会い方へも話は広がりました。

地域文化の風景

7 今日も音楽が流れる場所で時代を超え受け継がれていく文化と地元愛

八野治之さん　中島直子さん
（青葉区民文化センター　フィリアホール）

―中島　青葉区は、一言でいうと「音楽のまち」です。バイオリンなどの個人教室も少なくないですし、音楽好きな人が多い。近隣の小学校にアーティストと出向く際も、児童から楽器や音楽への関心の高さを感じます。

―八野　地元の学校も音楽活動が盛んですし、音楽教室や様々なコーラス、弦楽合奏団などの市民活動団体にフィリアホールを発表の機会に使っていただいています。さらに、まちなかにはコンサートを行うカフェがいくつもあり、生活の中で音楽が身近なものとして親しまれているのがわかります。

―中島　全体としてはクラシックが多いのですが、たまプラーザにある「3丁目カフェ」などは多様なジャンルのバンド演奏にも意欲的でいつも刺激を受けますね。音楽だけでなく、地域の人々が気軽に参加できる体験講座も人気なんですよ。まちぐるみのイベントが多いのは、アートを通じて人々が出会う場が活発だからなのでしょうね。

写真提供：3丁目カフェ

左：中島さん　右：八野さん

写真提供：3丁目カフェ

―八野　住宅地では、寺社仏閣がその役目を担っているようです。青葉区は、太鼓やお囃子など伝統文化の保存会がいくつもあるんですよ。

―中島　県の無形文化財に指定されているものもあります。お祭りでいうと、6つの地区が合同で行う「鷺神（おどろき）社例大祭」は見応えがあり、盛り上がりますね。

―八野　僕は青葉区に暮らして長いんですが、昭和40年代に東急田園都市線が開通するまでは、田園風景が広がっていたんですよ。今は都会的な雰囲気になりましたから、駅前を見ていると想像がつきにくいかもしれないですね。今でも地元の方の間では、かつての地名や屋号が使われているのを耳にします。

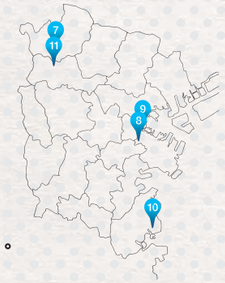
―中島　実は稲作や、「浜なし」（横浜市で認定された果樹生産者団体による梨のブランド。主な品種は豊水、幸水、新水）など、今でも農作は盛んです。「寺家ふるさと村」という田園風景を残している地区もあり、蛍の鑑賞スポットになっています。昔から引き継がれているものと、新しく生まれたものが調和しながら混在しているのも、青葉区の魅力のひとつですね。

―八野　一人一人が語り部となって、文化を次の世代へ伝えていこうという意識を感じます。新しくやってきた人もどんどん巻き込んで、みんなで地域の財産を守っていくんだという力強さがありますね。

―中島　盆踊り大会では、子どもの参加率も高いんですよ。今も昔も、音楽の鳴っているところでは人々の豊かな交流が生まれています。私達も、そんな出会いのきっかけを、まちのあちこちに仕掛けていきたいですね。

事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。



8 8月25日（金）

京急線・黄金町駅周辺で開催しているアートフェスティバル「黄金町バザール2017」へ出かける。10回目となる今回は、世界中から総勢25名のアーティストが参加。制作の過程も見ることができる。作品を見るためにまちを歩くと、かつて黄金町で生活していた人々のことが思い浮かぶ。小さな家のなかで、濃密なアートと出会う。

9 8月28日（月）

ヨコハマトリエンナーレ2017の会場、横浜美術館を訪れる。タイトルは「島と星座とガラパゴス」。イタリア出身の作家、パオラ・ピヴィのカラフルな作品は子どもたちも興味津々。地域や大きさ、主張も色々な作品を観るにつれ、本展のテーマ「接続」と「孤立」が頭の中を回る。身体にずしんとくるような重厚な時間。

パオラ・ピヴィ《私の大好きなジジ》2014

10 10月4日（水）

金沢区・シーサイドラインに乗って工場を舞台にした美術展「会社まるごとギャラリー」へ。今年のテーマは、干支にちなんで新しい視点を“とり”いれて、“とり”こむ。「バードオブパラダイス」というタイトル通り、社屋のあちこちに鳥の姿が。年々、参加する工場も少しずつ増えて、お散歩がてらと他会場にも案内してもらう。

11 10月14日（土）

緑区で開催された「みどり福祉ホームまつり」に行く。横浜市十日市場地区センターを会場に、豚丼やカレー、ポテチパンといった出店がずらり。身体と心が温まる。体育館のステージでは瀬谷養護学校大和東分教室で結成された「はっぱオールスターズ」がラップを披露。大和の境川をテーマにした歌詞に、会場もノリノリ。

ヨコハマアートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
（ＳＴスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜ＳＴビル 208
（認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL：045-325-0410
FAX：045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite
ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.014

発行	ヨコハマアートサイト事務局
編集	認定ＮＰＯ法人 ＳＴスポット横浜
テキスト	小川智紀　池田友実 加納美海 齋藤友弘（横浜市立大学）
デザイン	相澤事務所株式会社
撮影	小渕真希子
印刷・製本	株式会社 三島印刷
発行日	2017年12月28日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。